

PREX NOW



途上国と関西をつなぐ VOL.266 特集:国際化を支えるダイバーシティの実現を



また来てもらえる KANSAIになろう。

今回のPREX NOWは、外国人労働者、技能実習制度についてお届けします。

PREXは、ビジョン2030の下、日本で働く外国人のことについても、PREXを通じて発信し、関心をもって理解してもらえるよう、2020年、「責任ある外国人労働者受入れプラットフォーム」(JP-MIRAI)の会員となりました。また、PREXオンラインカフェ「e-toco」では、「SDGs達成／ESGから考える外国人技能実習制度」と題し6月～9月に3回にわたり、(株)ワールディングとの連続企画でのライブ配信を行いました。



*JP-MIRAI:「責任ある外国人労働者受入れプラットフォーム」

国際協力機構(JICA)とザ・グローバル・アライアンス・フォー・サステイナブル・サプライチェーン(ASSC)が、共同で事務局となり、日本において外国人労働者を受け入れる企業及び業界団体、労働組合、市民社会、メディア、研究者らと共に2020年11月16日に設立。

詳細は、JP-MIRAIのウェブサイトからご覧ください。

*PREXビジョン2030

人材育成を通して、イノベーションを喚起し、異なる価値観を持った人々が互いに認め合い、共に支え合う社会の実現に貢献します。

信頼され、選ばれる日本へ。



JICA
宍戸健一さん



ASSC
和田征樹さん

「責任ある外国人労働者受入れプラットフォーム」(JP-MIRAI)の共同事務局を担当されている、国際協力機構(JICA)上級審議役 宮戸健一さんと、ザ・グローバル・アライアンス・フォー・サステイナブル・サプライチェーン(ASSC) 理事 和田征樹さんにお話を伺いました。

JP-MIRAIの設立の経緯について教えて下さい。

宮戸さん:JICAはODAによる途上国の社会経済の発展をメインに活動していますが、日本国内では過去十年を見ても外国人労働者の数は3倍に増えるほど、人手不足の状況が続いています。JICAの各国内拠点にも外国人労働者についての相談が届くこともあります。日本の産業・GDPの維持のためには人材の確保は不可欠で、今後さらに少子高齢化による生産労働人口の減少が進むと、人手不足はもっと大きな問題になっていくと考えられます。JICAでも入管法改正の議論がされていた3年ほど前から検討や勉強を始め、取り組みを開始しました。JICAへの期待として、ODA事業でかつて支援してきた、職業訓練校や保健医療分野などのつながりで、日本企業に必要な人材を確保できないか、という相談もありました。ODA事業では留学生や研修員を受け入れ、日本への理解を深めてもらい、日本との関係も強化しようとしていますが、アジアなどから日本に夢をもって来日する若者が、日本で期待したような賃金がもらえなかったり、非常に辛い思いをしたり、というケースが多いということを知り、愕然としました。海外では、日本人は「いい人」というブランドが定着していると思いますが、今後も現状のように日本の外国人に対する受入環境が改善されず、来日した若者たちが失望して帰国することが続くと、日本に来たいと思う人がいなくなるのではないか、という漠然とした不安を感じ、国際協力に携わってきた者として、取り組まないといけない問題だと思い始めたのが2,3年前でした。その頃からJICAの中でも相談し取り組もうということになりました。そして、これからは、日本に夢を持ってくれた人たちがまた来なくなる、選ばれる日本でないと、日本を目指してくれなくなるのではないかと思ったのです。日本の少子高齢化が進み、これからより極端に生産労働人口が減少するという状況で、それを担う外国人労働者がいなければ、日本のGDPを維持できないのではないか、と主張される方もあります。一方で、アジアの中には日本と同様に少子高齢化が進む国もあり、これまで日本に労働者を送り出してくれていたような国が、逆に労働者を受け入れる側になってくる、そして日本との経済格差もなくなる中で、日本の労働環境が悪いとなれば、ますます日本を選んでくれなくなるのではないかでしょうか。日本に来たいという若者から、選ばれる国になる必要がある、と思いました。その後、和田さんと出会い、既に企業とともに技能実習生の労働問題などにも取り組んでおられるということで、一緒に活動しましょうという流れになりました。去年の2月頃から準備を始め、いろんな方々に連携を呼びかけて、2020年11月に設立に至りました。

短期間で設立に至ったということですね。

宮戸さん:短期間で立ち上がった背景は、同じような危機感を持っている人が非常に多かったためだと思います。残念ながら非常に悲しい報道に触れることが増えて、日本はこんなにひどい国だったのだろうか、ということもありますし、コロナ禍で困窮した外国人の行動に対して、差別につながるのではないかという状況も懸念され、これまで取り組んできた多文化共生に逆行するような状況は、とても辛いと思いました。

2年前のラグビーワールドカップを見ていても、日本チームといつても多様な選手で構成されていて、同じ顔をしている人達だけではない、そういうチームを国民が心から応援するという機運が高まる一方で、足元では企業の中での難しい面がある点にギャップを感じます。

また、企業の方々の危機感としても、欧米を中心とした世界の流れは、サプライチェーンにおける人権侵害については親会社の責任であり、企業の株価にも影響するなど経済的な実害があり、下請けだから関係がないという時代ではなくなっています。グローバル企業の危機感は非常に高いと思います。

時代の潮流としてはやらなければいけないことだったのですが、日本では国として取り組もうということがなかったため、JICAが呼びかけたところ、好意的に受け止めてもらえ、企業・団体会員220社・個人会員115名(2021年10月現在)の参加に繋がっていると思います。

現在、重点をおいている活動について教えて下さい。

宍戸さん：今は外国人労働者とのコミュニケーションに関する活動が一番必要だと考えています。そのためにアプリやポータルサイトなどの構築を準備中です。

労働問題が起きている背景には、いろんな原因があると思うのですが、来日前に業務内容や経費などについて細かい情報が得られず、情報ソースが口コミなどに限られているため、高額なお金を支払うなどの問題も起きています。それには、情報の非対称への対策が必要です。特に労働者の方々にとって、来日前～来日後の必要な情報が十分に行きわたっていないため、困った時にどうしたらいいかという情報提供が必要だと思っています。

また、外国人労働者が何に困っているのか、問題があった場合はどうしたらよいかなど労働者の声を聴く機能も必要だと考えています。労働者のみならず、留学性に向けて、日本に来る前に学んでおくことや資格、条件の違いなどについて、分かりやすい動画をつくることも考えています。和田さん：救済のメカニズムはビジネスと人権において国際的な潮流で、企業にとっても大事なことで、日本にとっても手を差し伸べることは大切ですので、進めていく必要があることだと思います。SDGsの中でもゴール8で重要視されています。

読者の皆さんへメッセージをお願いします。

宍戸さん：大阪・関西は2025年に万博があり、世界の方々が関西を目指してこられます。これから経済も活性化し、それを支える外国人が多く来られるという時に、「また来てもらえる関西」にしていくために、少しずつ今の状況を良くしていくかなければいけないと思います。目を覆うような悲惨な報道なども無くしていかなければなりません。来た人たちが幸せに、また関西に来たいと思ってもらえるための取り組みが重要ですので、今後も関心がある方と一緒に取り組みたいと思います。

インタビューの全文はPREXに掲載→

JP-MIRAI <https://jp-mirai.org/jp/about/>



JP-MIRAIの行動原則。PREXも会員となり行動原則に賛同・実践しています。

JP-MIRAI 行動原則

【私たちが目指す社会】

国連持続可能な開発目標(SDGs)やビジネスと人権に関する国連指導原則などにおいて、外国人労働者の権利を保護し、労働環境・生活環境を改善することは、世界的な社会課題とされています。日本においても、働く外国人が増え経済社会の重要な一翼を担う中、これらの課題解決に真摯に取り組み、責任をもって外国人労働者を受け入れ、「選ばれる日本」となることが重要です。私たちは、外国人労働者が安心して働き生活できるディーセンターワークの実現を通じて、包摂的な経済成長と持続的な社会の実現を目指します。

【私たちの行動】

私たち、本プラットフォームの会員は、省庁、自治体、関係機関や市民社会、有識者並びに国際機関を含むすべてのステークホルダーと協力し、「私たちが目指す社会」の実現に向け、次のように行動します。

- 1.私たちは、外国人労働者の受入れに当たり、関係法令を遵守します。
- 2.私たちは、外国人労働者の人権尊重や労働環境・生活環境などの現状を把握し、課題の解決に努めます。
- 3.私たちは、働く場と生活の場の両方で、外国人労働者との相互理解を深め、信頼関係を醸成します。
- 4.私たちは、日本及び国際社会の発展と安定に貢献するため、外国人労働者の能力開発に尽力します。
- 5.私たちは、プラットフォームの取り組みを日本国内及び世界に発信していきます。

なお、上記の行動は、私たちの企業・団体自身の取り組みのみならず、サプライチェーンや関係する企業・団体にも積極的に働きかけることとします。

1 人権と ビジネス



ワールディングの池野 真史です。

ワールディングは、日本型の多文化共生社会、誰もがどんなステージでも安心して活躍できる社会の創造をビジョンとし、海を越えて挑戦する企業と外国人材を応援しています。

2013年に創業し、東京に本社、大阪と名古屋に支社、ベトナム・ハノイに拠点があります。事業としては、外国人の受け入れ企業、監理団体や登録支援機関といった、外国人技能実習生・特定技能外国人を監理・支援する団体、業界団体・地方自治体を対象に、仕事から語学・生活まで外国人材に関わるあらゆる課題に対する支援を行っています。外国人技能実習制度について考えると、現在、約40万人が日本に在留していて、いろいろな職種がありますが、私たちの生活に密着している産業で働いていることを大前提として考えなければなりません。この人々がいなくなったらどうなるのか、また、国際的な移動先として日本が選ばれてるのかという視点も必要です。

企業にとって、人権とビジネスはサプライチェーン上の話なので社内に限った話ではありませんが、外国人材の活用という視点で言えば、今自分たちの企業がどの段階にいるのかを確認することが大事です。もうすでに外国人、例えば外国人技能実習生を雇用しているのか。そうだとしたら、労働環境や採用フロー上法令違反やブローカーに法外な手数料を徴収されたりしていないか。そうした人権侵害行為を受けていないかヒアリングをできているのか。ほかの企業は何をやっているか情報収集しているか。外国人材と働く従業員、そうではない従業員がどれくらい外国人材雇用について理解しているか。社内の外国人材の活用における意識の変革と課題の把握がまずは重要です。

人権は、「権利」という概念で難しく抽象的にとらえられがちですが、経営者から現場で働く方まで、全員が「多様な人がいかに活躍できる環境を作るか、そのために何をするか」を具体的に考える機会を作ること。これがまず企業単体、個人としてできることだと思います。

e-toco #11～#13はワールディングと支援先の企業の皆さんからお話を伺いました。

<SDG/ESGから考える外国人技能実習制度>

#11:6月17日(木)

ゲスト (株)ワールディング 池野さん

#12:7月26日(月)

ゲスト (株)大阪設備 代表取締役 宮田さん

#13:9月15日(水)

ゲスト 平田工業(株)のみなさん

SDGs達成／ESGから考える 外国人技能実習制度

★6月17日(木) 12:15～12:45(30分)

(株)ワールディング 様との3か月連続企画です。

※e-toco の内容全文は
PREXのウェブサイトに掲載。→



※(株)ワールディングは、トヨタ自動車や日本ハム等大手企業が加盟する、正規活動における多文化共生の実践に取り組むASACの活動員です。

開拓の国際化を支えるダイバーシティの実現を目指します。
公益財団法人太平洋人材交流センター(Pacific Resource Exchange center)



2 ベトナム人と 共生し続けられるような 企業を目指します。

大阪設備の宮田雄史です。

2013年初頭、景気が良くなり始めたころ、業務拡大が課題となり、たまたまベトナム人実習生の話を聞き、受け入れにチャレンジすることになりました。最初は言葉や文化、仕事に対する意識の違いに大変苦労しましたが、彼らの人間性に助けられ、乗り越えることができました。当初は3年間の有期雇用でしかないとと思っていたが、彼らと接し、ベトナムを訪問し彼らの親御さんの話を聞き、次第に意識が変わってきました。実習生は仕事の技術だけでなく、日本の文化や日本の良いところを学びに来ているお客様であり、生徒であり、仲間であり、家族であると思うようになりました。文化の違う外国人と一緒に生活するのは簡単ではありませんが、彼らのアイデンティティを尊重し、尊厳を傷つけないように接すれば、気持ちの距離は必ず縮まると考え、今後もベトナム人と共生し続けられるような企業を目指します。株式会社大阪設備：ダクトの製造・施工。冷媒工事も開始。ベトナム人エンジニア6名、ベトナム人技能実習生6名、合わせて12名のベトナム人を雇用。帰国したベトナム人技能実習生のためにベトナム工場を建設、出資。

<https://osaka-setsubi.com/>



zoom



※e-toico の内容全文はPREXのウェブサイトに掲載。→

3 信頼関係で変化 の大きな時代に 対応します。



大阪生野区の平田工業です。

当社は67年の歴史を持ち、物づくりのノウハウは他社に負けません。そういった自負を持つ職人気質の社員が多く、そのため変化を好まない社風が今もなお残っています。

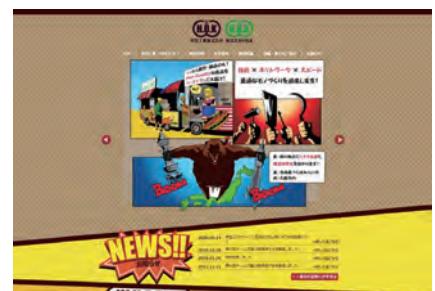
しかしながら、変化の大きい時代に適応できるよう、ダイバーシティの推進を行っており、その一環として、何ができるか模索していたところ、外国人実習生の存在を知り、その受け入れを検討し、決定しました。日本人社員・派遣の採用難に加えて、他社さんから聞く実習生の労働意欲に興味があったということもあります。企業と実習生の関係も非常に良いと思います。実習生からは、「相談したらすぐに対応してもらえる」、「仕事を丁寧に伝えてもらえる」、「分からないときは嫌な顔をせず分かるまで教えてもらえるので、しっかりと技能を習得できる」、また、「休憩中もコミュニケーションをとってくれてとてもうれしい」、「仕事をしていて楽しい、平田工業に来てよかった」という声を聴いています。私達も良かったと思っています。日本人社員は、方言や略して話すことが多いのですが、実習生たちが分かる単語を探して話していました。翻訳機も用意していたのですが、ほとんど使わず熱心に教えたことが信頼関係に繋がったと思います。

今回、実習生に教えたことで、日本の仕事は「精神論」や「根性論」みたいなものが多く残っているなと感じました。教えるだけでなく教わる事もすごく多くあるので実習生の受け入れをきっかけに、仕事のやり方の変化に対応できる企業になれると思ったことが発見でした。

平田工業株式会社：住宅資材メーカー。

建築外装用、屋根用部材製造。

現在、大阪と茨城の工場でベトナム人7名が働いている。



※e-toico の内容全文はPREXのウェブサイトに掲載。→

アメコミ風のウェブサイト <http://www.hiratakogyo.co.jp/>

私が紹介したい国。

今回は、狭間職員が
グアテマラを紹介します。



世界遺産の街
アンティグアのarco(門)

グアテマラと言えば、、コーヒー? マヤ文明などの遺跡?世界一美しい鳥ケツァール? それとも、、、危険な国!?

みなさん、こんにちは! 国際交流部の狭間です。PREXに入局する前に、2年間グアテマラで生活をしていました。

グアテマラで過ごした2年の経験が、PREXで働くきっかけになっています。

グアテマラは、中央アメリカ北部に位置し、メキシコの南に位置しています。北米大陸と南米大陸の間の国々のひとつです。古くはマヤ文明として栄え、大航海時代にスペインからの支配を受けるようになりました。

その後およそ300年の時を経て、スペインから独立。内戦を経験し、現在のグアテマラとなっています。

マヤ文明の名残である、マヤの先住民族の文化とスペイン統治時代の文化が交じり合う国。それがグアテマラです。

私は、大学で国際関係学を勉強していたのですが、文献を読むだけではわからないことがたくさんありました。当時、関心があったコーヒー農園を見てみたくて、グアテマラへ行くことを決めました。実際に自分の目で見て、現地の人の話を聞いてみたい。行ってみて初めて分かることがある。それを身に染みて体感した2年だったように思います。行ってみて初めて分かったことのひとつは、日本人に東北地方の方、九州地方の方、それぞれ特徴があるように、グアテマラにも、地方と首都の格差、観光地と地方都市との格差、西と東の違い、先住民族とそれ以外の人との違いがあることです。ですが、基本的には日本人と同じくシャイな民族で、人生における最優先事項は家族や愛する人たちだと思いました。音楽がかかれば、大人も子供も自然と踊りだすほど踊りが体に染みついています。

また、地方都市に住む人々の生活の作法にも感心しました。人は、街を歩いてそれ違う人には必ず挨拶します。市場でも挨拶。仕事でも、出勤している人全員に挨拶してから仕事が始まります。挨拶は地方都市で生きていくにはとても重要でした。その習慣が染みついで、帰国後すぐ違う人に思わず声をかけそうになり、何度かひやっとしたことがあります。

現在、PREXでは、ほぼすべての研修をオンラインで実施しています。「会う」、「話をする」、「自分の目で見る」、「(空気などを)感じる」。以前は当たり前のようにできていたことが今では難しい状況です。また自由に気軽に来ができる日が来ることを待ちわびつつ、目の前のオンライン研修の準備にまい進したいと思います。(国際交流部 狹間)

* PREXウェブサイト「世界は人で、できている」では、
PREX職員が、さまざまな国の人情報を紹介しています。→



皆さんにとって 「貧困」は どこか遠い国の 知らない人たちの 問題でしょうか？



最近では、コロナウイルスの影響もあり、「子どもの貧困」問題が話題に取り上げられ、日本でも貧困問題に注目が集まっています。9月30日に開催した第9回「上本町SDGs大学」では、お寺の「ある」と社会の「ない」をつないで「子どもの貧困」問題の解決を目指す「おてらおやつクラブ」理事の福井良應様よりご講演いただきました。

「おてらおやつクラブ」は、お寺への「おそなえ」を仏さまからの「おさがり」として、子どもたちをサポートする支援団体との協力を通じて、経済的に困難な状況にある家庭へ「おすそわけ」をする活動を行っている団体です。

現場での活動をもとに具体的なデータと事例を交えたお話をいただき、講演後の質疑応答では参加の皆さまから様々なトピックで意見交換が行われ、大変盛り上がりました。

☆貧困問題の解決は行政がより力を入れて担うべき問題ではないのだろうか？

☆日本の貧困問題の1番の原因はなんだろう、孤立？社会の分断？支援の輪の少なさ？

☆困っている人が一番必要としている支援はなんだろうか？

私たちの身近な問題として「貧困問題」が起きている。そして、その「貧困問題」を見過ごしてしまっている。

福井様の講演と質疑応答を通じて、そんなことに改めて気づく大変貴重な時間になりました。

今回のイベントを機に関心の輪、そして支援の輪が少しでも広がると嬉しいです。(国際交流部 児島)

ウェブサイト「上本町SDGs大学」はこちら→



NEWS &TOPICS

今年のノーベル物理学賞を真鍋淑郎さんが受賞されましたね。嬉しいニュースに私たちまで嬉しい気持ちになりました。今回の「PREX NOW」は、外国人労働者、技能実習制度についてお届けします。様々な問題を乗り越え、世界から愛される日本、そして関西でありつづけたいとPREXは考えています。PREXへのお問い合わせやご意見、「PREX NOW」への意見・感想をお待ちしています。E-mail: prexhrd-pr@prex-hrd.or.jp

コロナ禍でも、オンデマンドやライブ配信による遠隔研修を実施しています！



～2021年度「ガーナ国材育成奨学計画」および「ネパール国材育成奨学計画」における付加価値研修～

★日程:2021年9月3日

★参加者:ガーナ国材育成奨学計画の留学生23名

ネパール国材育成奨学計画の留学生19名

★委託元機関:株式会社 日本開発サービス

★講師:日吉屋 5代目 代表取締役 西堀 耕太郎 氏

本研修の目的は、来日中のガーナ人、および、ネパール人留学生を対象に、日本ならではの経験を提供し、将来、日本の良き理解者として両国友好関係の強化拡充に貢献する人材へと育成する一助となることです。

京都で唯一の京和傘製造元である日吉屋 五代目、西堀代表から伝統技法を活用した商品開発の取組みを紹介頂き、その上で商品開発や付加価値に関するディスカッションを行いました。

最新の研修レポートは

PREXのウェブサイトで紹介しています。→



関西大学SDGsパートナーに登録！

PREXは、2021年11月、「関西大学SDGsパートナー」に登録されました。PREXが実施した研修に参加した途上国の行政官と学生の交流や、PREX職員と学生によるSDGsに関する意見交換等を行っていきます。



PREX新メンバーの小河俊道です。

10月1日よりパナソニック株式会社からの出向でPREXに加わりました。研修や新規事業開発を担当します。

座右の銘は

「なせば成る。なさねば成らぬ何事も 成らぬは人の為さぬなりけり」。

世界の食卓 グアテマラ編

グアテマラには、レファクション(軽食)という文化があります。人によって、朝ごはんが早かったり、遅かったりするので、10時ごろ、または、16時ごろ、レファクションを取ります。

＜ある日のレファクションのメニュー＞

●chuchito(チュチート)

●arroz con chocolate(アロース・コン・チョコラテ)

チュチートは、日本でいうおにぎりやちまきのような食べ物です。グアテマラの主食である、トウモロコシの粉を練って、トウモロコシの葉っぱに包んで蒸します。中には鶏肉や豚肉が入っています。

アロース・コン・チョコラテは、アロース・コン・レチエ(ミルクがゆ)にチョコレートを混ぜたものです。

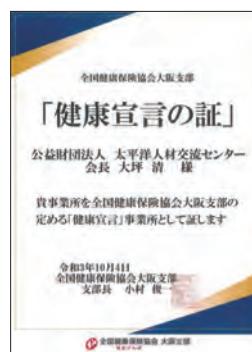
お米とチョコレート！？とびっくりされるかもしれませんが、郷に入っては郷に従え。標高2,600m地点の高地に住んでいた私にとっては温まるし、おなかも膨れるので、好きなメニューの一つでした。

(狭間)



PREXは、「健康宣言」事業所です。

2021年10月、全国健康保険協会大阪支部の「健康宣言」事業所として認定されました。



3時の「ラジオ体操」や毎日6,000歩を目標にした「ウォーキングラリー」、「心の健康づくり計画」にも取り組んでいます。

PREX NOW第266号(2021年12月発行)
編集・発行:公益財団法人 太平洋人材交流センター
専務理事:岡本 譲
〒543-0001 大阪市天王寺区上本町8-2-6
大阪国際交流センター2階 TEL.06-6779-2850
ホームページ:<http://www.prex-hrd.or.jp>
E-mail:prexhrd-pr@prex-hrd.or.jp
企画制作:ユナイテッド・トゥモロー